

目標

世界のどこでも安全な飲み水が手に入るようにする。

安全な飲み水



成果

この10年間に、安全な飲み水が手に入る人の割合は、世界全体で77%から82%に増えました。1990年代に、改善された飲料水源を利用できる人が10億人以上増えたことになります。

…しかし

まだ11億人が安全な水源を利用できません。アフリカの貧しい地域や、都市周辺の不法居住区域では、水道の普及率も高くありません。またアジア諸国では地下水に含まれる砒素が危険なレベルに達しているところがあり、水質も差し迫った問題になっています。

課題

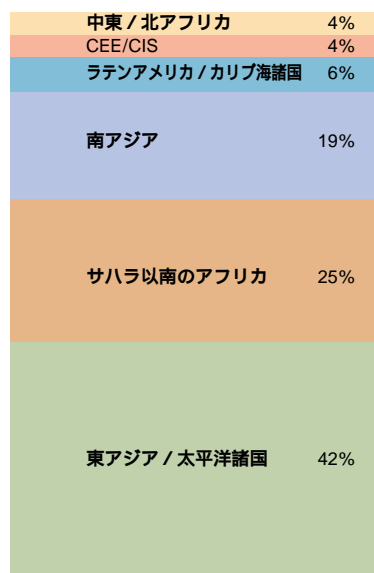
2000年までに安全な飲料水を広く利用できるようにすることが、1990年の課題でした。それは世界人口の23%に相当する12億人が、清潔な飲料水を継続的に利用できるようになることを意味しました。国際飲料水供給と衛生の10年(1981～1990年)のあいだには改善があったものの、1990年当時も残された課題となっていました。

*安全な飲み水が利用できるかどうかは、改善された水源を使用する人口の割合で判断する。

「改善された」とは：各世帯に水道が引かれている、あるいは公共の貯水塔や掘り抜き井戸、汚染を防止した井戸や泉、雨水集積装置があることなどを指す。

「改善されていない」とは：井戸や泉がむきだしである、川や池の水を使っている、業者が売る水や給水トラックの水を使っていることなどを指す。

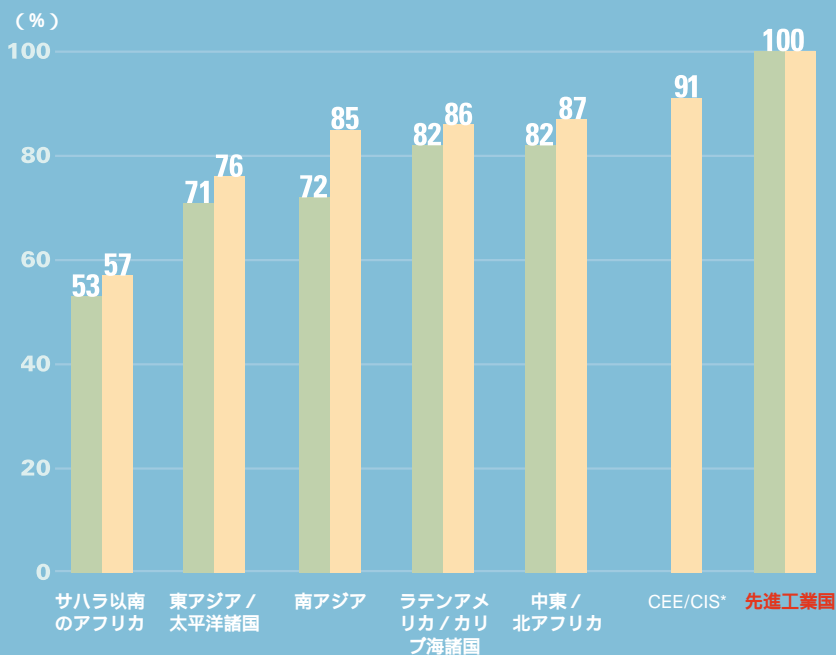
11億人が安全な飲み水を手に入れない



サハラ以南のアフリカで最も普及率が低い

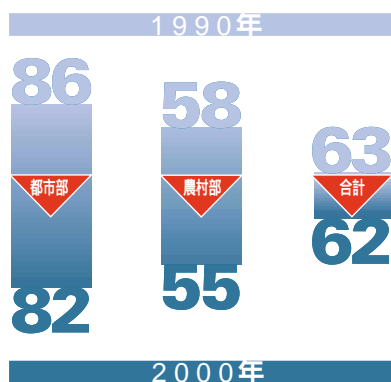
安全な飲み水の普及率 - 地域別変化 -

1990年 2000年



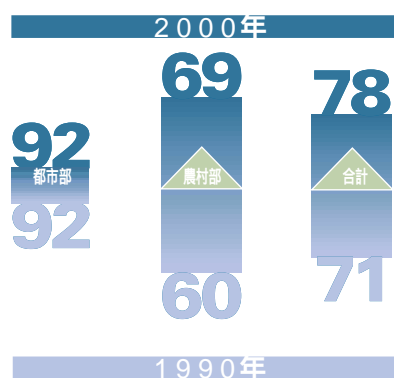
貧しい国では状況が悪化している

後発開発途上国では、普及率が低下している (%)



農村部の伸びが著しい

全開発途上国の安全な飲み水普及率の変化 (%)



安全な飲み水を手入手できる人口割合の比較(1990年)と2000年

サハラ以南のアフリカ

モーリタニア(100)	100
コモロ(88)	96
ボツワナ(93)	95
ガボン(-)	86
南アフリカ(86)	86
ジンバブエ(78)	83
コートジボワール(80)	81
ブルンジ(69)	78
レソト(-)	78
セネガル(72)	78
ナミビア(72)	77
カボベルデ(-)	74
ガーナ(53)	73
中央アフリカ(48)	70
タンザニア(38)	68
マリ(55)	65
ザンビア(52)	64
ベニン(-)	63
ガンビア(-)	62
ナイジェリア(53)	62
ニジェール(53)	59
カメルーン(51)	58
ケニア(45)	57
マラウイ(49)	57
モザンビーク(-)	57
シエラレオネ(-)	57
地域平均(53)	57
ギニアビサウ(-)	56
トーゴ(51)	54
ウガンダ(45)	52
コンゴ(-)	51
ギニア(45)	48
マダガスカル(44)	47
エリトリア(-)	46
コンゴ民主共和国(-)	45
赤道ギニア(-)	44
ブルキナファソ(-)	42
ルワンダ(-)	41
アンゴラ(-)	38
モーリタニア(37)	37
チャド(-)	27
エチオピア(25)	24

中東 / 北アフリカ

キプロス(100)	100
ジブチ(-)	100
レバノン(-)	100
エジプト(94)	97
ヨルダン(97)	96
サウジアラビア(-)	95
イラン(-)	92
アルジェリア(-)	89
地域平均(82)	87
パレスチナ暫定自治区(-)	86
イラク(-)	85
モロッコ(75)	80
シリア(-)	80

チュニジア(75)	80
スーダン(67)	75
リビア(71)	72
イエメン(-)	69
オマーン(37)	39

東アジア / 太平洋諸国

クック諸島(100)	100
朝鮮民主主義人民共和国(-)	100
ニウエ(100)	100
シンガポール(100)	100
トンガ(-)	100
ツバル(-)	100
サモア(-)	99
韓国(-)	92
バヌアツ(-)	88
フィリピン(87)	86
タイ(80)	84
パラウ(-)	79
インドネシア(71)	78
ベトナム(55)	77
地域平均(71)	76
中国(71)	75
ミャンマー(-)	72
ソロモン諸島(-)	71
モンゴル(-)	60
キリバス(-)	48
フィジー(-)	47
パプアニューギニア(40)	42
ラオス(37)	37
カンボジア(-)	30

南アジア

モルディブ(-)	100
バングラデシュ(94)	97
パキスタン(83)	90
ネパール(67)	88
地域平均(72)	85
インド(68)	84
スリランカ(68)	77
ブータン(-)	62
アフガニスタン(-)	13

ラテンアメリカ / カリブ海諸国

バリバドス(-)	100
セントクリストファー・ネビス(-)	98
セントルシア(-)	98
ウルグアイ(-)	98
バハマ(-)	97
ドミニカ(-)	97
コスタリカ(-)	95
グレナダ(-)	95
ガイアナ(-)	94
チリ(90)	93
セントビンセント・グレナディーン(-)	93
ペルー(-)	92
グアテマラ(76)	92
ジャマイカ(93)	92

アンティグア・バーブーダ(-)	91
コロンビア(94)	91
キューバ(-)	91
パナマ(-)	90
トリニダード・トバゴ(91)	90
ホンジュラス(83)	88
メキシコ(80)	88
ブラジル(83)	87
ドミニカ共和国(83)	86
地域平均(82)	86
エクアドル(71)	85
ボリビア(71)	83
ベネズエラ(-)	83
スリナム(-)	82
ペルー(74)	80
パラグアイ(63)	78
エルサルバドル(66)	77
ニカラグア(70)	77
ハイチ(53)	46

CEE/CIS

ベラルーシ(-)	100
ブルガリア(-)	100
スロバキア(-)	100
ハンガリー(99)	99
ロシア(-)	99
ウクライナ(-)	98
ユーゴスラビア(-)	98
アルバニア(-)	97
モルドバ(-)	92
カザフスタン(-)	91
地域平均(-)	91
ウズベキスタン(-)	85
トルコ(79)	82
グルジア(-)	79
アゼルバイジャン(-)	78
キルギスタン(-)	77
タジキスタン(-)	60
ルーマニア(-)	58

先進工業国

アンドラ(-)	100
オーストラリア(100)	100
オーストリア(100)	100
カナダ(100)	100
デンマーク(-)	100
フィンランド(100)	100
マルタ(100)	100
モナコ(-)	100
オランダ(100)	100
ノルウェー(100)	100
スロベニア(100)	100
スウェーデン(100)	100
スイス(100)	100
英国(100)	100
米国(100)	100
地域平均(100)	100

2000年のデータがない国:

サハラ以南のアフリカ: リベリア、サントメ・プリンシペ、セーシェルズ、ソマリア、スワジランド

中東 / 北アフリカ: バーレーン、クウェート、カタール、アラブ首長国連邦

東アジア / 太平洋諸国: ブルネイ、東ティモール、マレーシア、マーシャル諸島、ミクロネシア、ナウル

ラテンアメリカ / カリブ海諸国: アルゼンチン

CEE/CIS: アルメニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、クロアチア、チェコ、エストニア、ラトビア、リトアニア、ポーランド、旧ユーゴスラビア・マケドニア、トルクメニスタン

先進工業国: ベルギー、フランス、ドイツ、ギリシャ、パチガン、アイスランド、アイルランド、イスラエル、イタリア、日本、リヒテンシュタイン、ルクセンブルク、ニュージーランド、ポルトガル、サンマリノ、スペイン

目標

世界中で衛生施設(トイレ)を使用できるようにする。*

衛生



成果

この10年間に、世界全体の衛生施設の普及率は51%から61%に上昇しました。およそ10億人が、改善された衛生施設を利用できるようになった計算です。

・・・しかし

改善された衛生施設を使えない人が、まだ24億人います。とくにアジアに暮らす人の半分以上は衛生施設がない状態です。こうした人の約8割は農村部に暮らしています。また衛生状態の改善に重きをおかず、目標達成のために十分な資金を投入していない政府もたくさんあります。

課題

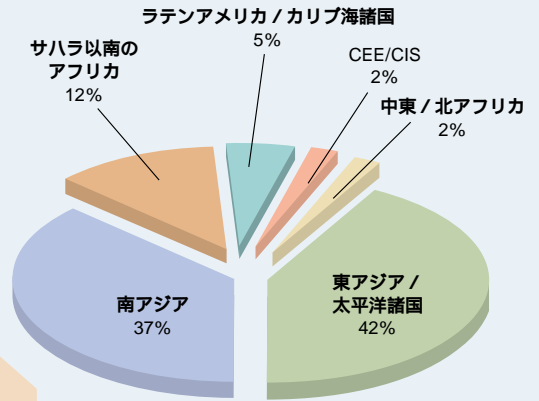
1990年当時、衛生的なし尿処理の手段を持たない人は26億人いました。人口増加の勢いに追いつきつつ、この数を減らすことは難問でした。これを成功させるためには、低コストの技術と社会動員のためのキャンペーンが不可欠でした。

*衛生施設を使えるかどうかは、改善された衛生施設を使える人口の割合で見る。

「改善された」とは：公共下水道や下水処理施設につながっていること、ピット(穴)式トイレ、換気付きの改良型ピット式トイレ、水洗トイレ、などを示す。

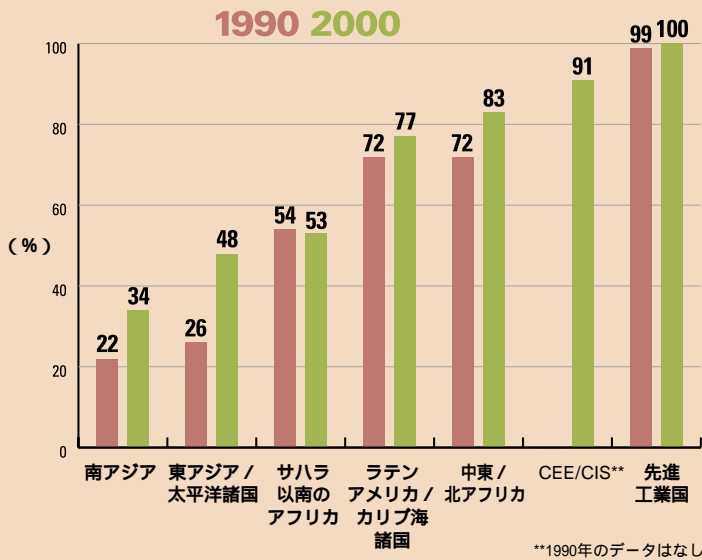
「改善されていない」とは：公共または共有のトイレを使っている、穴を掘っただけのトイレ、バケツをトイレに使っている、などを示す。

2000年現在、まだ24億人が、
改善された衛生施設を使えない



改善がめざましいのはアジア、
アフリカでは進展なし

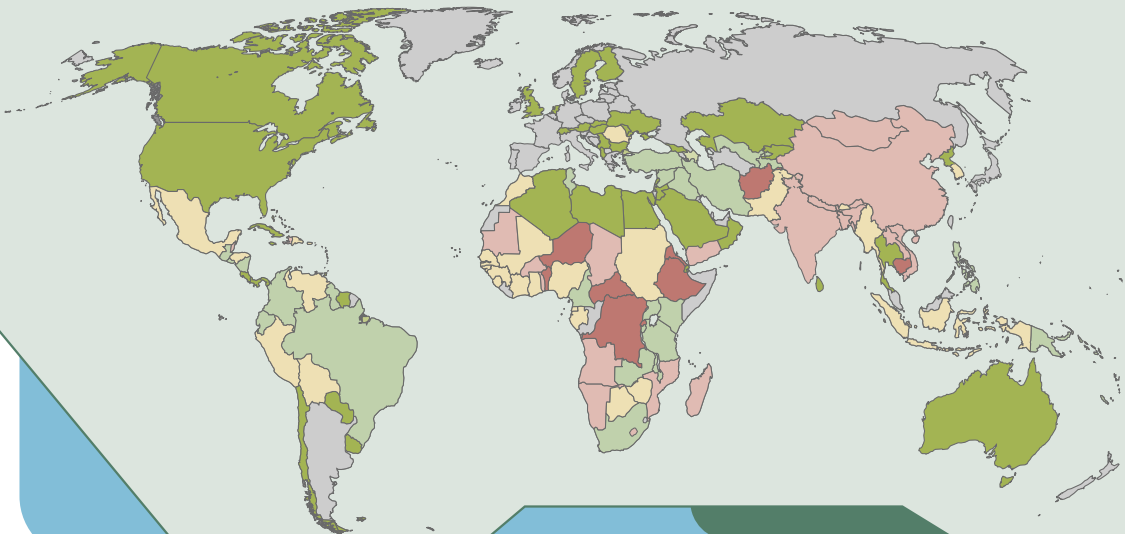
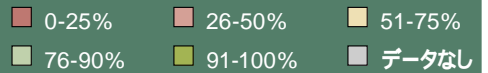
衛生施設普及率の地域別変化（1990年と2000年の比較）



本項目のすべてのグラフ
と地図の出典：
世界保健機関（WHO）/
ユニセフ共同監視プロ
グラム（2001年）

2000年の衛生施設普及率

改善された衛生施設が使える人口の割合



目標

2000年までにメジナ虫症を撲滅する。

メジナ虫症



成果

メジナ虫症の報告は1990年に62万4,000例でしたが、2000年には7万5,000例と88%も減少しました。インド亜大陸では2000年初頭にメジナ虫症の撲滅が認定されました。

…しかし

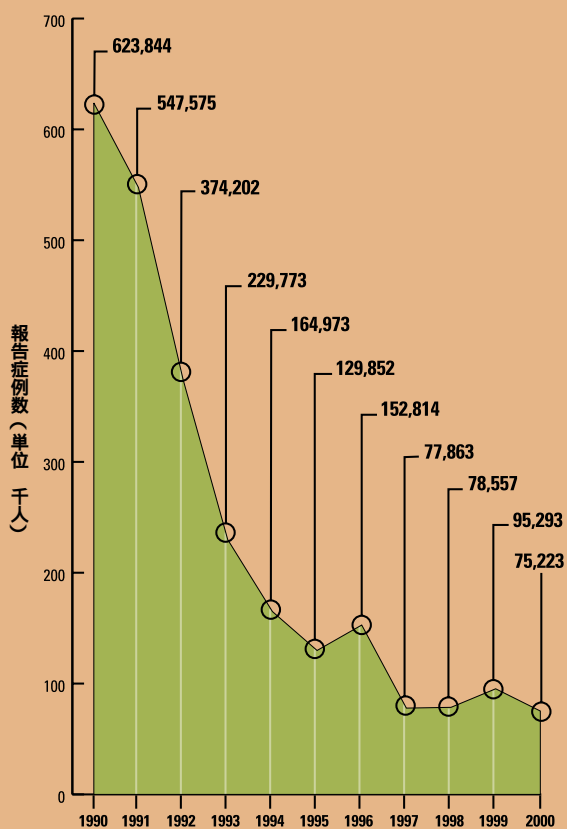
アフリカ14か国の、水不足にも悩まされている貧しい村々では、メジナ虫症の感染がいまでも見られます。たとえばスーダンだけで、世界全体で発生するメジナ虫症のおよそ4分の3が発生しています。

課題

メジナ虫は寄生虫で、よどんだ池や水たまり、覆いのない井戸を生活用水として使用しているような場所によく見られます。メジナ虫に感染すると激しい痛みが何か月も続くので、おとなは仕事や子どもの世話ができず、子どもは学校に行けなくなります。

メジナ虫との戦いに勝利する

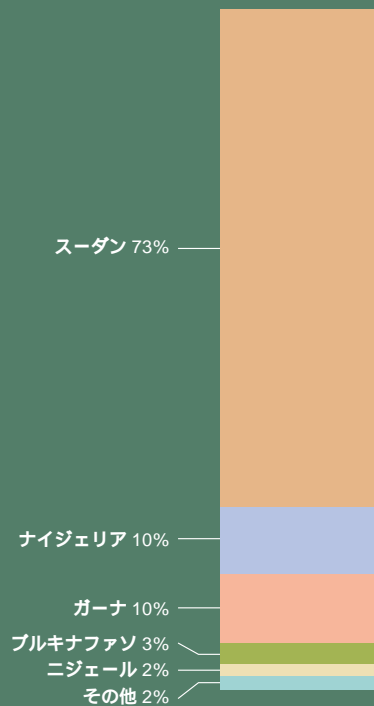
世界全体の発症数（1990～2000年）



出典：世界保健機関（WHO）（2001年）

アフリカが背負う重荷

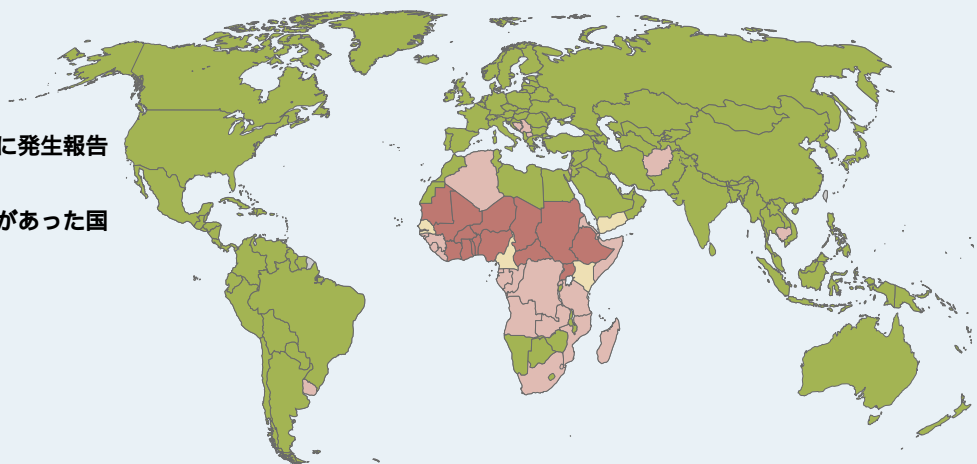
メジナ虫症の発生分布（2000年）



出典：世界保健機関（WHO）（2001年）

いまだにメジナ虫症が脅威になっている地域

- 撲滅認定国
- 認定準備中の国
- 未認定だが2000年に発生報告のなかった国
- 2000年に発生報告があった国
- データなし



出典：世界保健機関（WHO）（2001年）

目標

2000年までに、世界全体で小学校就学年齢の子どもの最低80%が基礎教育を受け、初等教育を修了する機会を与えられるようにする。

初等教育



成果

1990年時点で、小学校就学年齢の子どもの80%が学校に入学するか、学校に通っていました（初等教育純就学率・出席率）。1990年代末に、この割合は世界全体で82%に上昇しました。男女差は半分に縮まりましたが、次ページのグラフで示すように、まだ男女差が大きい地域が3つあります。

・・・しかし

成果はありましたが、この10年間の人口増も手伝って、初等教育を受けられない子どもはまだ1億2,000万人近いです。世界の4つの地域では、就学率・出席率が90%を切っています。

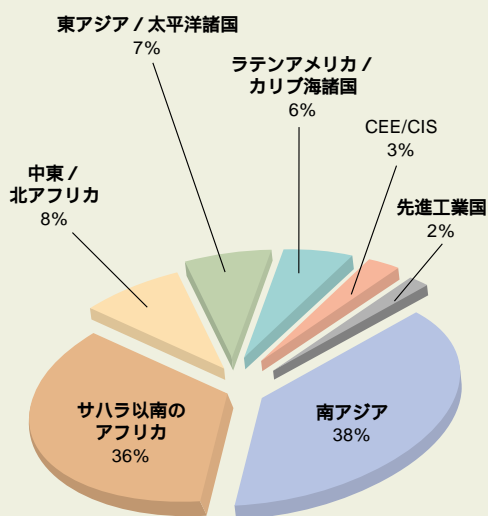
課題

すべての子どもが初等教育を受けることは、子どもの権利であるばかりでなく、子どもやおとなの生活にも良い影響を与えます。1990年代のはじめに就学率・出席率が90%を超えていたのは、東アジア諸国と先進工業国だけでした。

この項目のデータは、2000年4月にセネガルの首都ダカールで開かれた世界教育フォーラムでの「すべての人に教育を：2000年アセスメント 統計資料」のデータと異なっています。これは、複数指標クラスター調査（MICS）をはじめとする、最近の世帯調査の結果をもとに、情報の大幅な更新がおこなわれたためです。

学校に通えない子どもが多い地域

小学校就学年齢で、学校に通っていない子どもの割合（1999年）

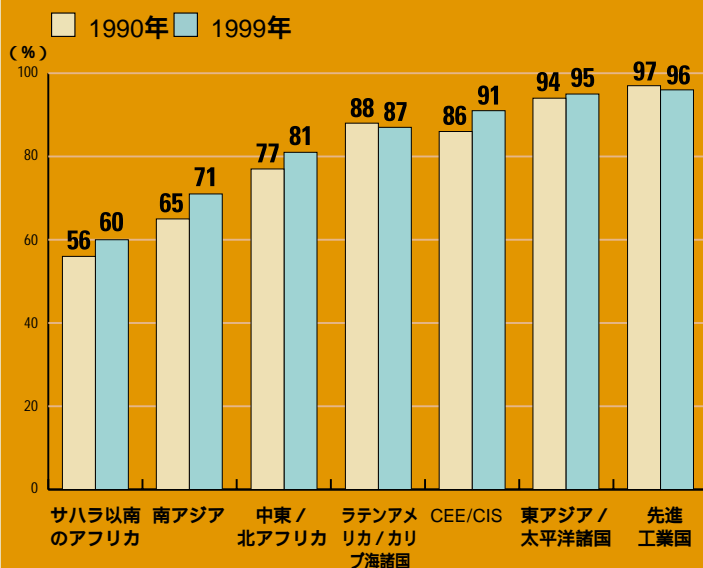


1999年時点で、小学校に通うべき年齢にありながら学校に通えない子どもは1億2,000万人いました。内訳は53%が女の子、47%が男の子です。1990年よりも男女格差は縮まっています。

出典：ユニセフ（2001年）

10年間にわずかな改善

小学校純就学率・出席率（1990と1999年の比較）

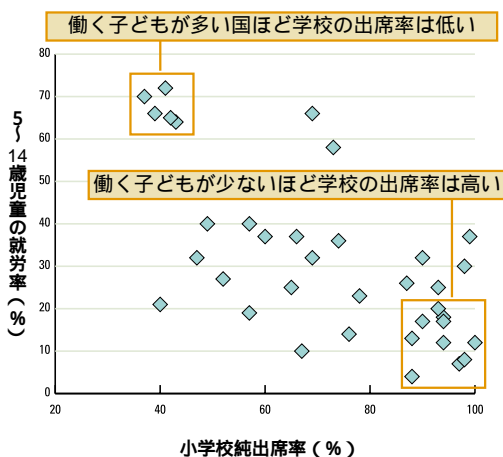


世界全体の小学校純就学率・出席率は、1990年の80%から1999年には82%に上昇しました。

出典：ユニセフ / ユネスコ（2001年）

学校と労働は両立しない

5～14歳の子どもの就労率と小学校純出席率の関係

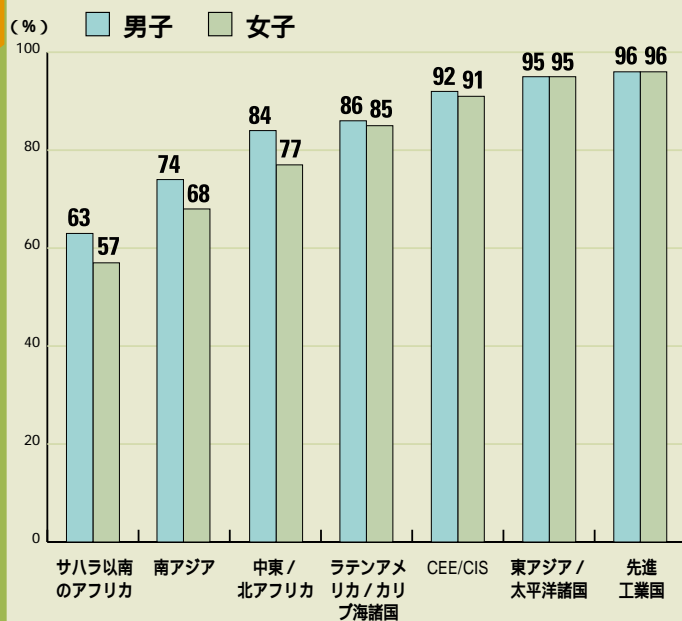


がひとつの国を表します。このデータは複数指標クラスター調査による(MICS)。この表は、働く子どもが多いほど学校の出席率が低く、働く子どもが少ないほど学校の出席率が高いことを示しています。

出典：ユニセフ（2001年）

男女差が大きい地域

小学校の男女別純就学率・出席率



1990年から1999年までのあいだに、男女格差は6%から3%になり、世界的に半分に縮まりました。

出典：ユニセフ / ユネスコ（2001年）

子どもの就学率・出席率* (1999年)

サハラ以南のアフリカ

セーシェルズ	100
スワジランド	100
カボベルデ	99
モーリシャス	97
サントメ・プリンシペ	93
赤道ギニア	89
南アフリカ	87
ウガンダ	87
ナミビア	86
ジンバブエ	85
ボツワナ	84
ガボン	83
マラウイ	83
ガーナ	74
ケニア	74
カメルーン	73
トーゴ	69
ザンビア	67
ルワンダ	66
レソト	65
ソマリア	64
ベニン	63
コモロ	60
地域平均	60
コンゴ民主共和国	59
コートジボワール	57
マダガスカル	57
ナイジェリア	56
モーリタニア	54
タンザニア	53
ガンビア	52
アンゴラ	50
セネガル	49
ブルンジ	47
エチオピア	44
モザンビーク	44
中央アフリカ	43
ギニアビサウ	42
シエラレオネ	41
マリ	40
チャド	39
ギニア	39
エリトリア	37
ニジェール	37
リベリア	34
ブルキナファソ	27
中東 / 北アフリカ	
シリア	99
レバノン	98

アラブ首長国連邦	98
アルジェリア	97
バーレーン	97
イラン	97
キプロス	96
リビア	96
ヨルダン	95
パレスチナ暫定自治区	94
カタール	94
チュニジア	94
イラク	93
オマーン	89
クウェート	87
エジプト	86
地域平均	81
サウジアラビア	76
モロッコ	70
イエメン	58
スーダン	40
ジブチ	33
南アジア	
モルディブ	98
スリランカ	90
バングラデシュ	82
インド	76
地域平均	71
ネパール	66
ブータン	53
パキスタン	46
アフガニスタン	24
東アジア / 太平洋諸国	
ニウエ	100
ツバル	100
中国	99
フィジー	99
クック諸島	98
ナウル	98
韓国	97
トンガ	95
地域平均	95
マレーシア	94
ベトナム	94
インドネシア	93
サモア	93
シンガポール	93
ブルネイ	91
モンゴリ	90
フィリピン	90
バヌアツ	90
タイ	80

キリバス	71
ラオス	69
ミャンマー	68
カンボジア	65
CEE/CIS	
カザフスタン	100
モルドバ	99
ブルガリア	98
グルジア	98
ハンガリー	97
キルギスタン	97
ポーランド	97
ユーゴスラビア	97
ルーマニア	96
旧ユーゴスラビア・マケドニア	96
クロアチア	95
ボスニア・ヘルツェゴビナ	94
ラトビア	93
ロシア	93
タジキスタン	93
チェコ	91
アルバニア	90
アゼルバイジャン	88
エストニア	87
地域平均	87
ベラルーシ	85
トルクメニスタン	80
ウズベキスタン	78
トルコ	72
ラテンアメリカ / カリブ海諸国	
バレーバドス	100
バハマ	99
アンティグア・バーブーダ	98
グレナダ	98
メキシコ	97
アルゼンチン	96
ブラジル	95
ガイアナ	95
キューバ	94
ドミニカ共和国	94
ジャマイカ	93
ウルグアイ	93
ベリーズ	91
コスタリカ	91
パナマ	91
地域平均	91
コロンビア	90
エクアドル	90
チリ	89
ドミニカ	89
セントクリストファー・ネビス	89
スリナム	89

トリニダード・トバゴ	88
ボリビア	87
ペルー	87
ホンジュラス	86
パラグアイ	85
セントビンセント・グレナディーン	84
ベネズエラ	84
ニカラグア	80
エルサルバドル	78
グアテマラ	77
ハイチ	42
先進工業国	
フランス	100
アイルランド	100
イタリア	100
日本	100
マルタ	100
オランダ	100
ニュージーランド	100
ノルウェー	100
ポルトガル	100
スペイン	100
スウェーデン	100
デンマーク	99
フィンランド	98
アイスランド	98
英国	98
ベルギー	97
スイス	96
地域平均	96
オーストラリア	95
カナダ	95
スロベニア	95
米国	95
オーストリア	91
ギリシャ	90
ドイツ	86
世界平均	82
開発途上国平均	80
1999年のデータがない国:	
サハラ以南のアフリカ: コンゴ	
東アジア / 太平洋諸国: 朝鮮民主主義人民共和国、東ティモール、マーシャル諸島、ミクロネシア、パラウ、バプアニューギニア、ソロモン諸島	
CEE/CIS: アルメニア、リトアニア、スロバキア、ウクライナ	
ラテンアメリカ / カリブ海諸国: セントルシア	
先進工業国: アンドラ、バチカン、イスラエル、リヒテンシュタイン、ルクセンブルク、モナコ、サンマリノ	

*この指標は、各国の教育担当省が収集した学校運営データと、小学校就学年齢の人口データ(就学者数)それに小学校就学年齢の子どもの学校に通っているかどうかを質問した全国世帯調査に基づいています。

目標

成人、とくに女性の非識字率を、最低でも1990年の半分に減らす。

成人の識字率



成果

この10年間に、非識字率は25%から20%に減少しましたが、人口増加などの要因もあり、非識字者(読み書き、計算のできない人)の数は変わっていません。世界のすべての地域で非識字率は減少しており、とくにサハラ以南のアフリカ、東アジア・太平洋諸国での改善が顕著です。

・・・しかし

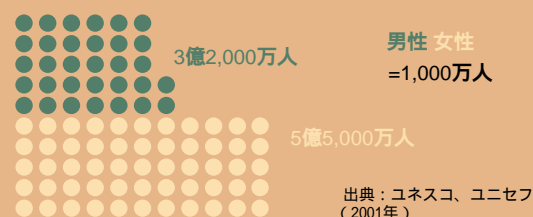
1990年代を通じて非識字者の数は9億人近いままでした。とくにその多くが南アジア、東アジア・太平洋諸国に集中していました。南アジアでは、非識字率は減少したものの、人口増加のため非識字者の数は4,000万人も増加しました。

課題

識字の有無を知る基準は、日常生活に関係する単純な文章を読み書きでき、内容を理解しているかどうかです。しかしこの最も基本的な教育レベルにさえ達していない人が、15歳以上で9億人近くいるのです。

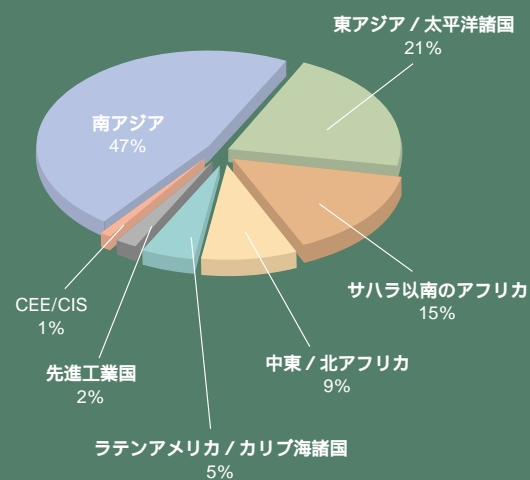
数は変わっていない

1990年から2000年までのあいだ、非識字者（男女）の絶対数は変わっていません。



世界の非識字者の半分は南アジアにいる

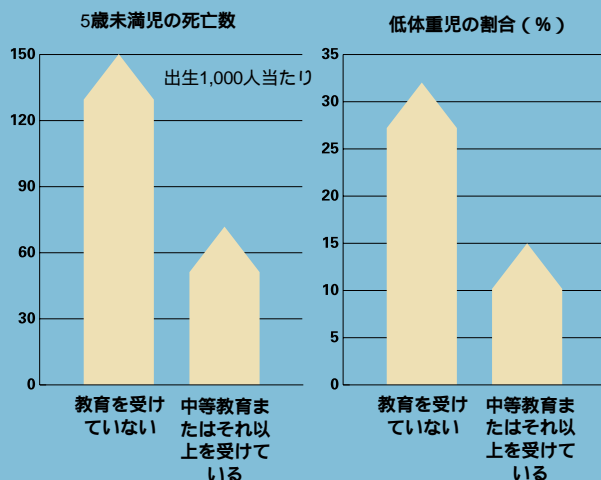
15歳以上の非識字者の割合（2000年）



出典：ユネスコ、ユニセフ（2001年）

母親の教育と子どもの生存および成長

母親の教育程度と、5歳未満児の死亡率および中・重度の低体重児の割合の関係

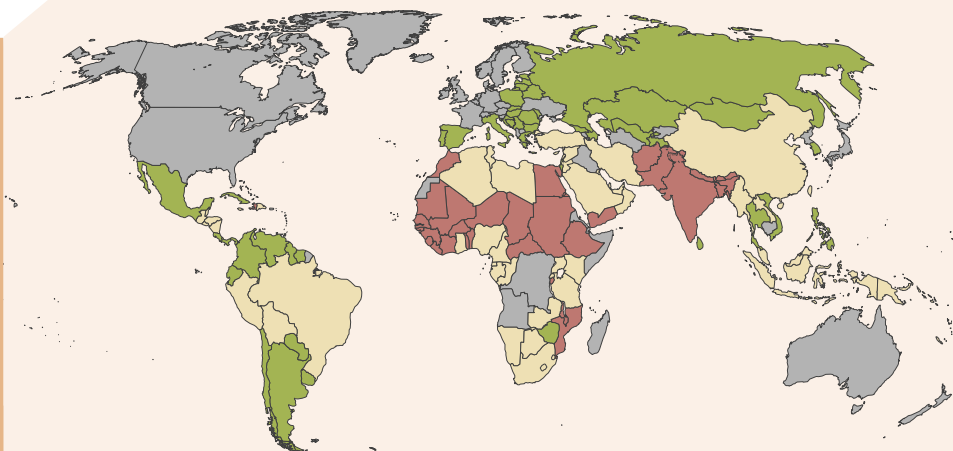
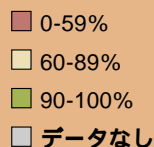


母親の識字と教育程度は、子どもの健康と密接に結びついています。このグラフは世帯に関する35の調査からデータを引いたもので、世界のほとんどの地域についてカバーしています。教育を受けていない母親の子どもは、中等以上の教育を受けている母親の子どもに比べて、死亡したり栄養不良になったりする危険が2倍も高いことがわかります。

出典：一般的な人びとの保健に関する35の調査から得た最新のデータ（1995～1999年）

識字率（2000年）

読み書きができる
15歳以上の人の割合



出典：ユネスコ、ユニセフ（2001年）